

佳作 日本の家族



フィトリヤニ
FITRIYANI

国籍 インドネシア

職種 介護

実習実施者 株式会社ケンブリッジ

監理団体 協同組合ケアサポート瑞穂

私はインドネシアの介護技能実習生で今年二年目に入った。日本に来る事が出来て、そしてここで働ける事が嬉しかった。それは私の小さい時からの夢だった。働く時、最初は不安で毎日緊張しながら働いていた。なぜなら、私の日本語がまだ足りなくて、それに教えてくれるインドネシアの先輩が居ないからとても不安だった。しかし、一緒に働いている友人が漢字や文法など日本語を丁寧に教えてくれて、とても感謝している。分からない言葉があった時、分かりやすい言葉に変えて説明してくれたりしたので助った。この環境に恵まれて良かった。だからこれからももっと勉強したいと思う。

面白くて初めての経験があった。私は利用者様の昔話を聞く事が好きだ。例えば冬の時につららを食べる事とか、生のさつま芋を食べる事とか雪がいっぱい降った時に二階から降りて出かけることの話など聞くのが好きだ。利用者様は時々ご家族の事も私に話してくれた。そして、毎日一緒に体操したり、歌を歌ったり、ゲームをしたり、毎月行事をしたり、利用者様のお誕生日を祝ったり、クリスマスの時にプレゼントを配ったりして、と

でも楽しかった。利用者様から何回聞いた「娘がここに置いてくれて良かった。毎日楽しくて寂しくなくて帰らない」と言ってくれた。私はそれを聞いて嬉しかった。外国人だから利用者様は私の事が嫌いと思ったけど逆に利用者様はとても優しく日本語も教えてくれた。学校で教えられない言葉がここで出あった。例えば「しゃっこい、快晴、土砂降り、達者等」はここで初めて聞いた。利用者様は私にとっては先生だ。だから時々「先生」と呼ばせてもらった。

そろそろ帰る時間になると利用者様は私に良く聞く「もう帰る時間になる?」「いいえ、まだ二時間ぐらいありますよ」と言うとその後また聞いて、何回も同じ事を聞いて、最後に「ここに泊ってくれる?」「泊りたいけれど帰らないといけませんね、ごめんね。明日また来ますよ」と返事した。実はそれを聞いた時嬉しかった。利用者様も時々私の家族の事を聞いた。日本でも働いて家族から遠くて利用者様が心配してくれた。そんなに優しくとても感謝している。皆様に会えて良かった。利用者様と接しているとインドネシアの家族を思い出して恋しくなるけど皆様は私の日本の家族のように感じた。

トイレの介助した時も利用者様は「トイレに連れてくれて、ズボンを下ろしてくれて、便座に座わせてくれてありがとう。何も出来なくて、赤ちゃんみたいですみませんね」「いいえ、私の母ちゃんみたいだから大丈夫ですよ、何でも任せて下さい」一緒に笑った。

技能実生としての生活はまだ二年間あるけど新しい経験を沢山教えて欲しい。機会があればインドネシアの事も皆様に話したいと思った。